

## 【Visa 調査 | キャッシュレス派 VS 現金派の実態】

### キャッシュレス派の現実とは？ 60代以上では8割に接近！

#### 四国地方に更なるキャッシュレス化の潜在力ありか

#### 生活防衛・タイパの意識が高いキャッシュレス派、両者で異なる節約方法

ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:シータン・キトニー、以下 Visa)は株式会社マクロミルに委託し、全国の15-79歳の男女11,538人を対象に、「キャッシュレス利用実態に関する調査」を行ったところ、キャッシュレス派と現金派の意識や行動の差異が複数見られました。

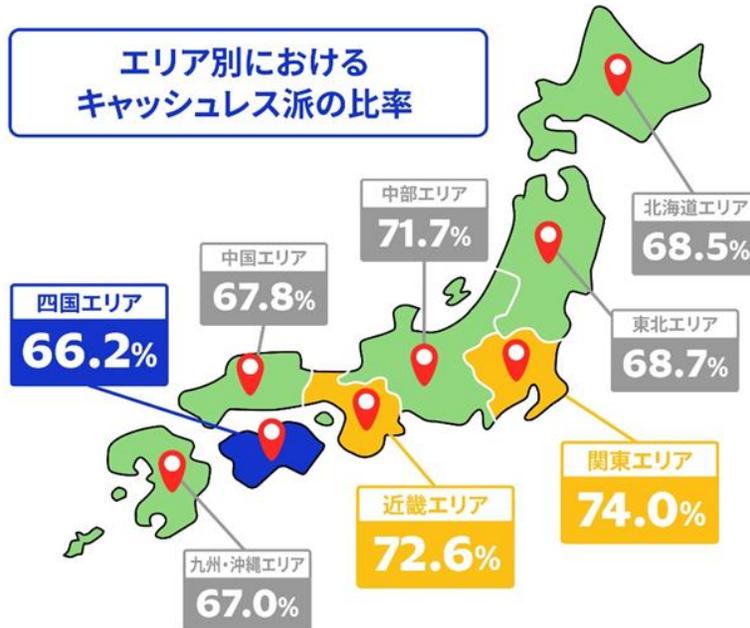


#### 調査結果サマリー

- **地域別のキャッシュレス派・現金派の比率**  
関東・近畿でキャッシュレス派が多く、四国では他地域と比較し現金派が多い傾向。
- **節約意識と節約方法**  
キャッシュレス派:74%が節約意識向上。「ポイント還元や割引のある決済手段を使う」が主流。  
現金派:「外食控え」「自炊」が主な節約方法。
- **ATMでの現金を引き出し頻度**  
キャッシュレス派と現金派の両方で減少。  
キャッシュレス派の理由は「クレジットカード/デビットカードの利用が増えたから」(47%)など。  
現金派では「現金を持ち歩くのが怖くなった」が16%と、防犯面での心理的不安が垣間見える。
- **時短に関する意識や行動**  
キャッシュレス派:「金融機関はネットを利用」(特に男性 40~50代)。  
現金派:「金融機関は対面店舗を利用」

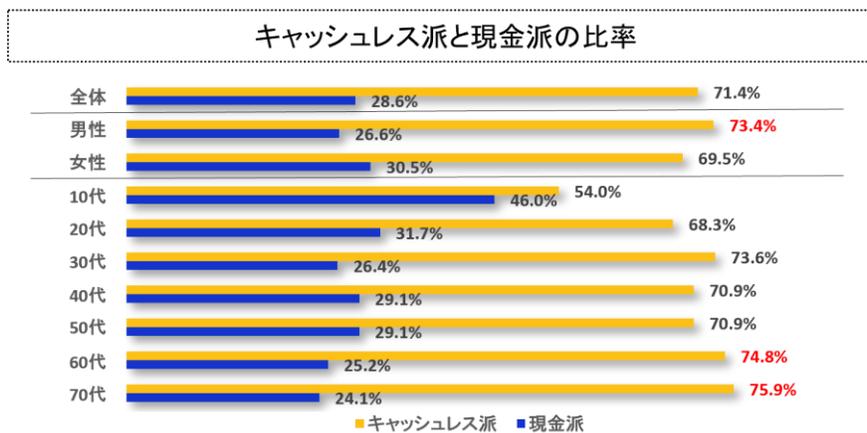
■関東や近畿において、キャッシュレス派の比率は高め。現金派の比率が全国の中で高いのは四国。

調査結果を全国で見たとき、キャッシュレス派と現金派の比率は 71%でした。特にキャッシュレス派の比率が高いのは、関東や近畿という大都市圏でした。このことから、都市部ではキャッシュレス決済のインフラが整っているのも利便性も向上していることが背景にある可能性が考えられます。一方で他地域と比較し現金派が多いのは四国で、キャッシュレス派の比率は 66%と全国平均に比べて最も低い結果でした。これは一部の地方においてはまだキャッシュレス決済の普及の潜在力があると推察されます。

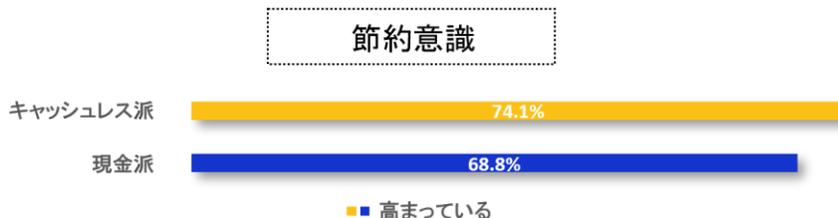


■キャッシュレス派の割合は 60 代以上では 75%程度と他の年代より高い。

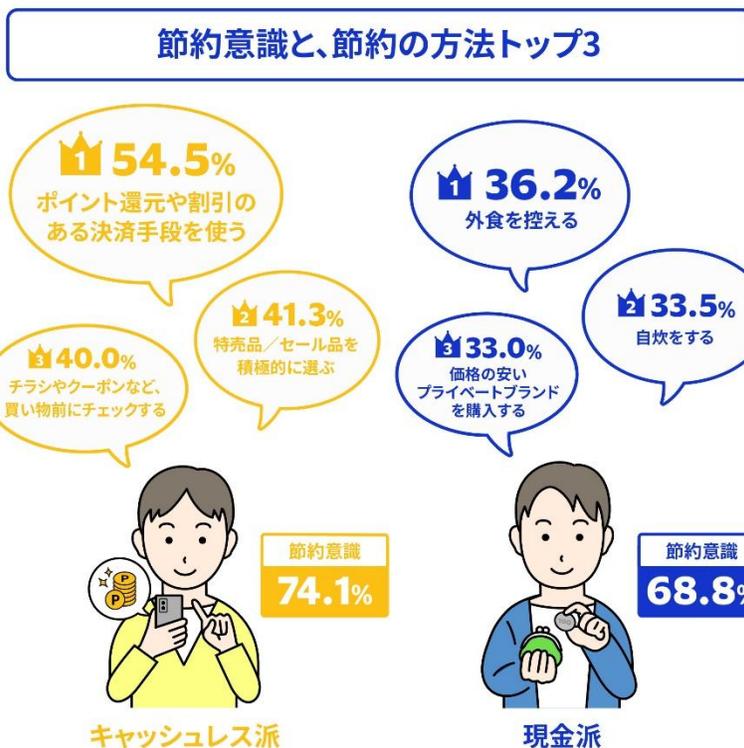
年代別にみても、30 代以上で 7 割を超え、特に 60 代以上では 75%程度に上っています。このことから、キャッシュレス決済の利用が高齢者層にも広がっていることがわかります。性別では男性の方がよりキャッシュレス派の比率が高いという結果が出ました。



■キャッシュレス派ほど節約意識が高まっており、節約方法はキャッシュレス派と現金派で異なっている。  
物価高が続く昨今、節約意識の高まりについて尋ねたところ、キャッシュレス派は現金派に比べて節約意識が高いことがわかりました。具体的には、「とても高まっている」および「どちらかといえば高まっている」と回答した割合の合計が、キャッシュレス派では74%に上り、これは現金派の69%よりも5ポイント高い数値です。

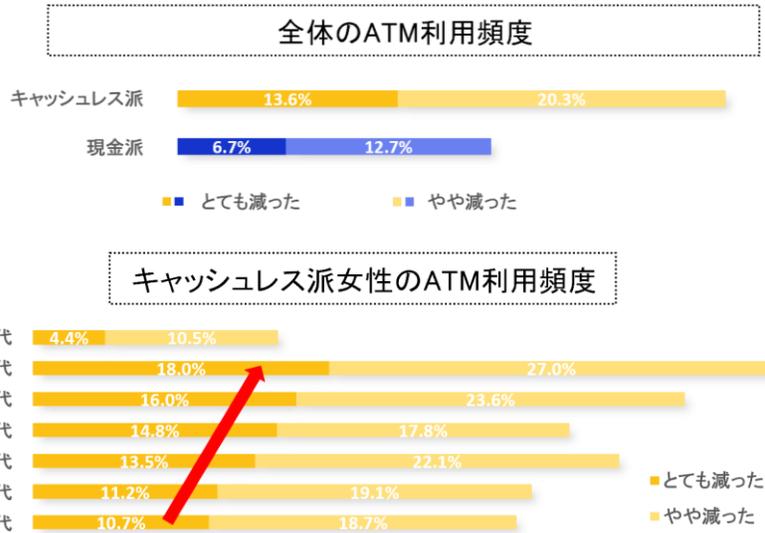


節約方法においてもキャッシュレス派と現金派では違いが浮き彫りになりました。普段取り組んでいる節約方法として、キャッシュレス派は「ポイント還元や割引のある決済手段を使う」が5割越えてトップ。次いで「特売品/セール品を積極的に選ぶ」(41%)、「チラシやクーポンなど、買い物前にチェックする」(40%)など、買い物はしつつも、“お得な買い物/お得なお金の使い方”を重視しています。一方で現金派においては、「外食を控える」「自炊をする」などが上位に挙がり、“お金を使わないようにする”ことで節約に取り組んでいる様子が窺えます。このように、キャッシュレス派はお得な情報やサービスを活用する一方、現金派は支出を減らす手段を選ぶ傾向があります。この違いは消費行動の心理的背景にも関連している可能性があります。キャッシュレス派は、テクノロジーの利便性を活用しつつ、積極的に情報を収集し、効率的にお金を使うことに価値を見出していると言えそうです。一方で現金派は、実際に手元にあるお金を直接管理することで、目に見える形での節約を実感しやすいという心理的な安心感を求めているのかもしれない。



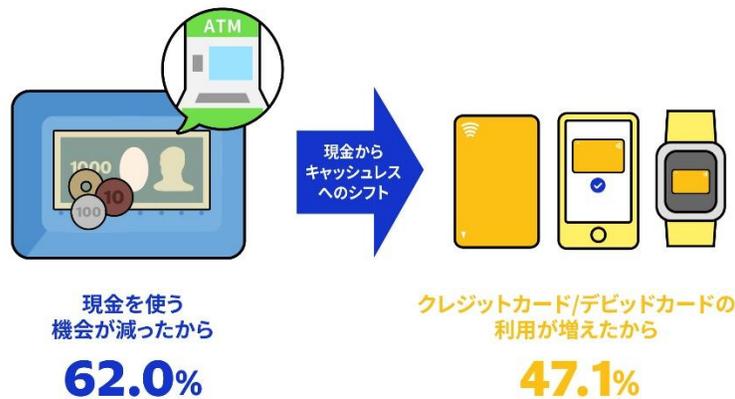
■ATM から現金を引き出す頻度は、キャッシュレス派と現金派の両方で減少。

ATM から現金を引き出す頻度は、キャッシュレス派と現金派の両方で減少しており、現金派が19%に対し、キャッシュレス派はより頻度が下がって34%でした。とりわけキャッシュレス派の女性若年層で顕著で、女性20代の『低下・計』は45%に上り、年代は低くなるにつれ「とても減った」は高くなる傾向にありました。このことから、特に女性若年層においては、現金を引き出す必要性が低下していることが示唆されます。彼女たちはキャッシュレス決済を積極的に利用し、現金を持ち歩く必要が少なくなっているため、ATMの利用頻度が大幅に減少していると考えられます。



減った理由として、キャッシュレス派は「現金を使う機会が減ったから」が62%と最も高く、次いで「クレジットカード/デビットカードの利用が増えたから」(47%)が挙げられました。現金を使う機会が減り、その分クレジットカード/デビットカードにシフトしているのがうかがえます。一方で現金派では「現金を使う機会が減ったから」(41%)が最も高い点はキャッシュレス派同様ですが、その次に高いのは「現金を持ち歩くことが減ったから」が30%でした。また、現金派の理由で、「現金を持ち歩くのが怖くなったから」も16%とキャッシュレス派よりも高く、現金の利用機会の低下以外に、防犯面での心理的不安もあり、持ち歩かなくなっている点も垣間見えました。

キャッシュレス派のATMから現金を引き出す頻度が減った理由

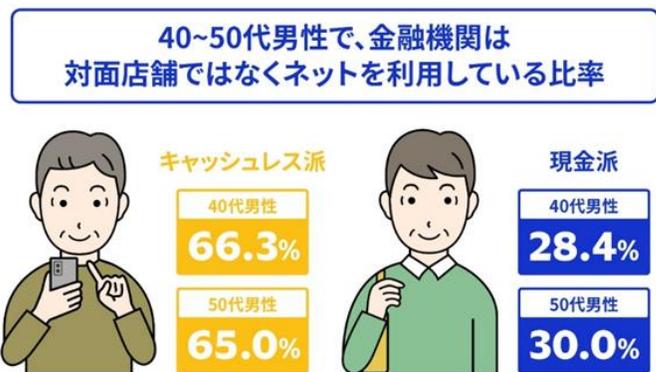
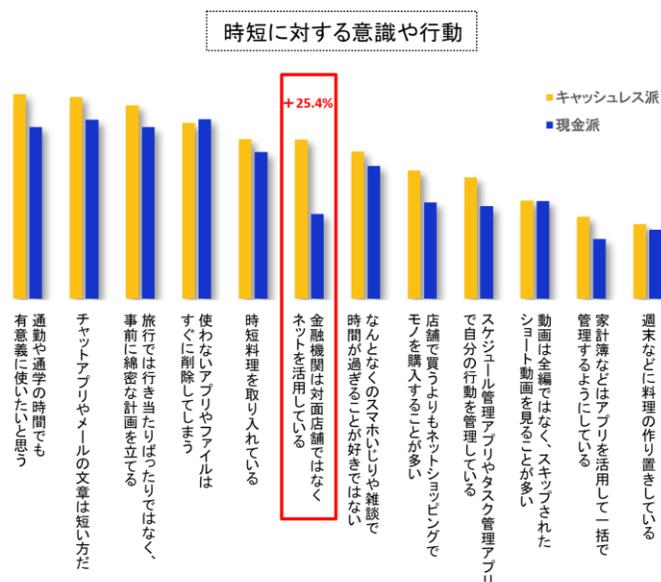


自由回答でも現金を引き出す頻度が減った理由として「犯罪の被害にあわないように」「物騒なニュースをよく聞く」といったコメントが散見されました。これは、防犯意識の向上がキャッシュレス化を後押ししていることを示唆しています。

キャッシュレス派	現金派
<p><b>落とす／失くすリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 最近は現金を使わずで、現金を持っていても、現金に対して意識がおろそかになってしまい、現金を落としてもまったく気付かなさうだから。(男性50代/東北)</li> <li>● 持ち物を落とすことが多いため、財布を落とした場合を考えると現金を持ち歩けなくなった。(女性20代/北海道)</li> </ul>	<p><b>落とす／失くすリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 財布に入れておき落とした経験があるためある程度の額をQRコード決済できるようにしておき、手持ちを少なくしたいから。(女性10代/中部)</li> <li>● 落としたとき、戻ってこないし、火事になったら、燃えてなくなるから。(男性60代/北海道)</li> </ul>
<p><b>犯罪(強盗／ひったくり)の被害にあわないように</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ATMを利用することで現金を持っていることがわかりやすくなり盗難などのリスクが上がるから。(女性60代/四国)</li> <li>● 現金を持ち歩いていると繁華街ではお金を盗む泥棒がいる可能性があるから。(男性10代/近畿)</li> </ul>	<p><b>犯罪(強盗／ひったくり)の被害にあわないように</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家の近所でひったくりの犯罪が増えているという報道があったから。(女性60代/関東)</li> <li>● 近くでATMから引き出すのを見られたお年寄りが被害にあったので。(女性60代/関東)</li> </ul>
<p><b>物騒なニュース(闇バイトなど)をよく聞くから</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ニュースなどで強盗が増えていたりして現金を手元に置くのが怖いから。(女性30代/中国)</li> <li>● 闇バイトなどでいつ強盗に襲われるか分からないから。(男性20代/北海道)</li> </ul>	<p><b>物騒なニュース(闇バイトなど)をよく聞くから</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 最近の強盗のニュースを見て家に現金を置かないようにしました外出時には少しの現金とチャージしたQRコード決済を持って行くようにした。(男性50代/中国)</li> <li>● 日本もかつての日本とは異なり、物騒な世の中になりつつあると感じているため。(男性30代/東北)</li> </ul>

■時短に関し、キャッシュレス派と現金派で差がみられたのは、「金融機関はネット利用」。

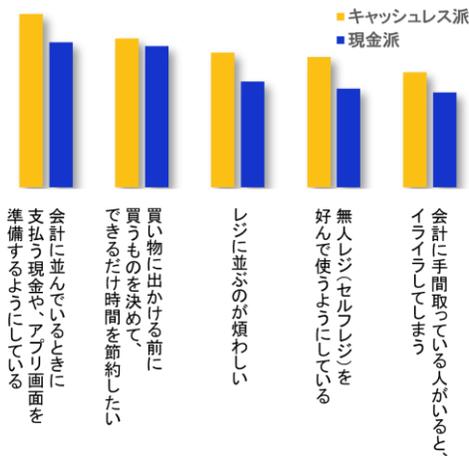
時短に関する意識や行動について、キャッシュレス派と現金派で大きく差がみられたのは、「金融機関は対面店舗ではなく、ネットを利用している」で、キャッシュレス派が 54%なのに対し、現金派は 29%でした。特に男性40~50代で差が顕著であり、キャッシュレス派の男性40~50代が6割以上なのに対し、現金派の男性40~50代は3割以下と倍以上の差がみられました。これは、キャッシュレス派がより効率的に時間を使うことを重視していることが窺えます。



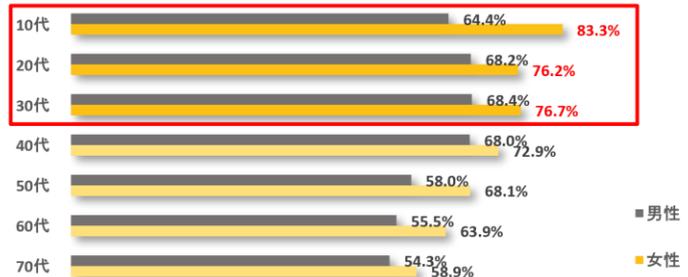
■「お会計時」における意識や行動では、キャッシュレス派は無人レジ(セルフレジ)を好んで利用。

キャッシュレス派と現金派で、主な「お会計時」における意識や行動に大きな差はみられませんでしたが、両者ともに7割以上が「会計に並んでいるときに支払う現金やアプリ画面を準備するようにしている」「買い物に出かける前に買うものを決めて、できるだけ時間を節約したい」と回答しています。一方でキャッシュレス派は「無人レジ(セルフレジ)好んで使うようにしている」意識も高く、特に女性若年層で顕著でした。これにより、キャッシュレス派が技術の進化を積極的に受け入れ、効率的な買い物を追求していることが示唆されます。

「お会計時」における意識や行動



【キャッシュレス派】無人レジ(セルフレジ)を好んで使うようにしている人



Visa は、安心・安全でシームレスな決済サービスを全国どこでもご利用いただけるよう今後も取り組んでまいります。

【調査概要】

<調査概要>

調査概要

調査委託先: マクロミル

調査対象者: 全国の15~79歳の男女 11,538人

調査期間: 2024年12月16日~2024年12月19日

キャッシュレス派の定義

本調査では、以下のようにキャッシュレス派と現金派を定義しました。

キャッシュレス派: 普段の決済で現金を使わないか、現金とキャッシュレスの両方が使える場面でキャッシュレス決済を選ぶ人。

現金派: 普段の決済で現金のみを使うか、現金とキャッシュレスの両方が使える場面で現金を選ぶ人。

※キャッシュレス決済には、クレジットカード、ブランドデビットカード、交通系電子マネー、流通系電子マネー、その他電子マネー、QRコード決済、スマートフォン標準決済、プリペイドカード、口座引き落とし、銀行振り込みが含まれます。

【Visa について】

Visa は電子決済の世界的リーダーとして、世界200以上の国と地域における決済取引によって消費者、加盟店、金融機関や政府機関をつないでいます。Visaのミッションは、最も革新的かつ利便性や信頼性が高く安全な決済ネットワークで世界を結び、個人や企業、そして経済の繁栄に貢献することです。私たちは、世界中のすべての人にとっての包括的な経済こそが、世界中の人々の生活を向上させ、経済へのアクセスが決済の未来へつながると信じています。詳しくは、Visa.com(英語サイト)または [www.visa.co.jp](http://www.visa.co.jp) (日本語サイト)をご覧ください。